

実質化された人・農地プラン

| 市町村名 | 対象地区名(地区内集落名) | 作成年月日 | 直近の更新年月日 |
|------|---------------|------------------|----------|
| 福山市 | 矢ノ迫(八日谷) | 2023年(令和5年)3月28日 | |

1 対象地区の現状

| | |
|--------------------------------------|--------|
| ①地区内の農地面積 | 6.5 ha |
| ②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の農地面積の合計 | 4.2 ha |
| ②地区内における70才以上の農業者の農地面積の合計 | 0.3 ha |
| i うち後継者未定の農業者の農地面積の合計 | 0.3 ha |
| ii うち後継者について不明の農業者の農地面積の合計 | - ha |
| ③地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある農地面積の合計 | 0.0 ha |
| (備考) 施設が老朽化しており更新を計画している。 | |

2 対象地区の課題

高齢の就農者が多くおり、引退後の後継者を見つけることが課題となっている。
また、これまで大規模な耕作をおこなっていた者が、高齢のため経営面積を縮小せざるを得ない状況においても、空いた農地の引き受け手を見つけることが課題となっている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

担い手への農地の集積や新規参入の促進等は、JA、市や生産組合が連携して取り組んでいる。また、農地の集積を行うため、農地中間管理機構の活用を図る。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

・研修事業の実施
2015年からJA広島連、JA福山市、沼隈町果樹園芸組合が主体となって次世代の担い手を育成する研修事業を行っている。今後も研修事業を継続し、地区外からの就農者を含めた新規就農者の育成を図る。

・生産者・JAが主体となった農地の集積
高齢などの要因で耕作ができなくなった農地については、生産者とJA、及び生産者間での連携を密にして中心経営体や新規就農者に斡旋し、速やかに新しい耕作者が見つかるようにする。また、効果的な農地の集積を行うため農地中間管理機構の活用を図る。市は農地の貸借と窓口となり、貸し借りが円滑に行えるようにする。

(参考) 中心経営体

| 属性 | 農業者 (氏名・名称) | 現状 | | 今後の農地の引受けの意向 | | |
|----|----------------|------|---------|--------------|---------|---------|
| | | 経営作目 | 経営面積 | 経営作目 | 経営面積 | 農業を営む範囲 |
| | A | ぶどう | 1.02 ha | ぶどう | 1.02 ha | 矢ノ迫 |
| 認農 | B | ぶどう | 0.06 ha | ぶどう | 0.06 ha | 矢ノ迫 |
| 認農 | C | ぶどう | 0.44 ha | ぶどう | 0.44 ha | 矢ノ迫 |
| | D | ぶどう | 0.59 ha | ぶどう | 0.59 ha | 矢ノ迫 |
| | E | ぶどう | 0.45 ha | ぶどう | 0.45 ha | 矢ノ迫 |
| | F | ぶどう | 0.62 ha | ぶどう | 0.62 ha | 矢ノ迫 |
| 認就 | G | ぶどう | 0.17 ha | ぶどう | 0.17 ha | 矢ノ迫 |
| 認農 | H | ぶどう | 0.38 ha | ぶどう | 0.38 ha | 矢ノ迫 |
| | I | ぶどう | 0.21 ha | ぶどう | 0.21 ha | 矢ノ迫 |
| 認就 | J | ぶどう | 0.15 ha | ぶどう | 0.15 ha | 矢ノ迫 |
| 計 | 10 経営体 | | 4.09 ha | | 4.09 ha | |